

大腸ガン

口から肛門までの管を消化管と呼び食道、胃・十二指腸・小腸・大腸に分けられます。大腸は、小腸で吸収できなかった栄養分と水分を吸収し残りの成分を肛門に運び、便を形成します。

また、大腸にできるがんが大腸がんです。国内での大腸がんの発症は臓器別で2番目に多く、大腸がんで死亡する人は女性では第1位で、男女合わせると胃がんを超えて肺がんに次ぎ第2位です。

発症は40歳から増加の傾向があります。食生活による肥満、赤肉の摂取、過度の飲酒、喫煙等のリスクが指摘されています。発症早期では症状はありませんが、進行すると便が細くなる、便秘、血便、下痢、腹部膨満、腹痛、体重減少等があります。

大腸がんを見つける検査の1つに便潜血検査があります。大腸がんは便が通過をするときに出血することがあり、その血液を調べるのが便潜血反応です。陽性になった場合は精密検査として大腸内視鏡検査、注腸検査を行います。

大腸がんの進行度には5段階(0～4期)のステージ分類があります。0期は早期がんでステージが上がるほど、がんが進行していることとなります。治療はがんを完全に切り取ることです。

早期に発見すれば内視鏡で切除することもできます。しかし、手術後に目に見えないがん細胞が残っている場合があります。これが再発を起こす可能性があり、術後補助化学療法や放射線療法が行われる事があります。

がんの治療効果の目安として5年生存率(がんと診断されて5年後に生存している割合)は0期では90%以上ですが、進行した4期では20%以下です。早期発見、早期治療が原則です。脂肪を取りすぎず野菜を十分に摂取し、お酒は控えめにしましょう。禁煙、適度の運動も励行しましょう。

40歳以上の方は毎年大腸がん検診を受けることをお勧めします。